

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592000014		
法人名	特定非営利活動法人 こすもすの里		
事業所名	グループホームこすもす2号館		
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田5332番地		
自己評価作成日	平成23年4月15日	評価結果市町村受理日	平成23年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年5月20日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の自立支援を重視し、職員優先での先走りケアをしないよう、全職員で取り組んでいる。  
 ・職員は、常に入居者一人ひとりのペース・気持ち等を考えたケアの実践に取り組んでいる。  
 ・全職員がケアを含めた自分なりの目標を立ており、その目標が達成できるよう日々努力している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員的大幅の異動で新人職員が増えた。管理者と職員は、その意味を自覚し、取り組みをしている。利用者の思いに沿った支援と職員の資質向上のため、前向きに見直しと研修に力を注いでいる。その結果、「利用者に活気がでた」、「利用者が自己主張ができる」に変化している。ホームが活気づくためには、自らが楽しみながら業務に取り組むことだと、学習している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム廊下とホールに掲示している。職員会議毎に、理念に沿った実践が出来るように話し合いを行っている。	法人の基本理念が活かされるよう、職員は話し合いを繰り返している。その結果、地域に融合したホーム独特の理念の作成に取りかかっている。	職員一人ひとりが努力目標を掲げ、取り組みを始めている。このことを基盤に、職員全体で共有できるホーム独自の理念作成に向け、取り組むことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食事や買い物等で地域に出かけたり、町の文化祭に作品を出品したり、町のふれあい祭り等にも参加している。また、地区のレクリエーション等にも参加し、地域との交流を図っている。	地域の区会に入会し、地域のイベントやレクリエーション等に参加し、住民との交流を図っている。	利用者が住民とつながりながら暮らすために、区長、民生委員、近隣の住民、婦人会、老人会との協力関係を深め、災害時の協力依頼、ホームの力を地域に貢献することにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところは、地域住民に向けての活動は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本人の状態、活動状況などを報告し、アドバイス、意見等を求めている。その内容については、事業所で報告し、サービスの向上に活かしている。	地域に発生した口蹄疫で開催が難しい状況にあったが、ホームの状況報告や解決できない事項等を話し合い、その意見をサービスの向上に活かしている。	今後、2か月ごとの開催と行政機関や区長をはじめ、地域の代表者・有識者の参加を広く求め、問題を提起し、そこでの意見や指導を織り交ぜ、サービスの向上に生かすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から情報交換は行っており、看取りケアについてや困難な入居者のケアについての相談など、問題解決に向けて一緒に取り組んでいただいている。	施設長や管理者は、運営推進委員会以外にも行政機関との行き来の機会を作り、相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関や門は施錠しておらず、本人が自由に散歩や草取りができるようにしている。身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員全員で取り組んでいる。	身体拘束の対象となる具体的な行為を職員会議や研修で正しく学習し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において、言葉の虐待等についての勉強会をし、全職員で虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護等を利用している入居者がいないため、その制度について学ぶ機会を設けていなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にできる限りわかりやすく説明し、不安や疑問点がないかどうかの確認をしながら、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会毎に家族に生活状況や状態等を報告し、家族からの意見を聞き、職員間で共有し、より良い支援ができるように心がけている。また、玄関に投書箱を設置している。	来訪時にホームの行事や利用者の様子を報告しながら、家族が意見を言いやすい雰囲気を作っている。家族からの経費軽減の提案では、オムツを減らすため、行動パターンを見直し、トイレ誘導に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議、毎日の申し送り時に、意見や提案を聞く機会を設け、可能な限り職員から出された意見や提案を反映させるようにしている。	職員会議や申し送り時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。可能な限り、それらを取り上げ業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力や勤務状況等の把握をしている。また、職員と話をする機会を設けており、常に向上心を持って働いてもらえるよう、職場環境・条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量に応じて、年間の職場外研修計画を立案し、研修を受ける機会を確保している。また、月に1回の職員会議において、職員が学びたいこと、今の職員に必要なと思われることの勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会への参加、年に数回、代表者・管理者が集まり情報交換や研修会の調整等を行っている。また、電話等にてお互い相談をするなど交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人・家族・関係機関等への聞き取りを行っている。入居後は、職員が近くに寄り添い、声かけ等を行い、できるだけ早くホームに慣れ、安心して過ごしていただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族と十分な話し合いを行い、家族の要望を拝聴すると共に、少しでも不安が解消されるよう家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスが必要となった場合は、必要に応じて他のサービス機関への紹介、連絡調整等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は自分で行っていただけるように声かけ・見守りを行っている。また、職員は介護者ではあるが、その前に1人の人間として毎日を楽しんで一緒に過ごすという気持ちで、日々の業務に当たっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を設け、時間を共有できるようにしている。また、状態報告などは手紙を書き、本人が書かれたメッセージや写真も同封して送っている。面会時には、近況報告も含め、お互いの情報交換も随時行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば家族に相談の上、できる限りの支援をするようにしている。友人との外出を希望される場合なども、家族に了解を得た上で、日頃の状況を友人に説明し、出かけていただくようにしている。	これまで大切にしてきたなじみの人や場所も日々薄れている現状だが、できるだけ、友人との食事、電話、趣味仲間の来訪を支援し、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性、性格を職員が把握し、本人の能力に応じて役割分担をしている。入居者間の交流を見守りながら、時には席の配置換えをしたり、職員が間に入ることでより良い関係性が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族等からの相談があれば支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人からの希望がある場合は、それに沿えるようにし、家族にも協力していただいている。	日々の支え合う生活を通し、利用者一人ひとりの思いをくみ取り、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合、家族、関係者、職員で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人や家族から聞き取りを行い、情報の収集に努めている。また、入居後も日頃のコミュニケーションの中でさりげなく一人ひとりの暮らしてきた環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況については、ケアをしていく中で状態を観察・記録し、全職員がチームとして現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時に面談を行い、意見・要望を聞きとり、プランに取り入れている。	サービス担当者会議でアセスメントを行い、本人、家族、担当職員の意向や観察記録を取り入れ、モニタリングし作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康チェック、生活の状態等を記録し、確実に情報を共有している。また、1ヶ月ごとに個別のまとめを担当職員が行いプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族ができない病院受診介助や買い物支援等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域在住の歯科医が年に1回程度、入居者の歯の状態チェックにボランティアで来てくださっている。また、地域住民の方が月に1回、歌のボランティアで来てくださっており、入居者は楽しい時間を過ごすことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向通りの医療機関受診ができるようにしている。かかりつけ医には常に情報提供を行い、連携を図っている。	本人および家族の希望の掛かりつけ医を受診、適切な医療を受けている。また、常に情報を提供し、アドバイスをもらえる関係を築いている。緊急時に備え、ホームの協力医ともいつでも話し合える関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内服薬や状態等に変化があった場合は、職場内の看護師に伝え相談し、個々の入居者が適切な受診等を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、情報を提供し、今後の治療方針や入院期間などの確認を家族と一緒に病院関係者から情報収集するようにしている。また、病院関係者から退院に向けての情報を早めにもらえるように、入院当初からの関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	先日、初めての看取りを行った。状態が変化していく毎に、家族や主治医等と話し合いを何度も重ね、ホームでできることを十分に説明しながら方針を共有し、訪問看護等と共にチーム一丸となり看取りを行うことができた。	家族の希望で看取りを経験している。主治医と訪問看護、ホームでできることを話し合い、試行錯誤の中で、チームで看取り支援に取り組んでいる。	今後、重度化した場合、家族の意向や職員の看取りへの考え方を検討し、方針をまとめ文書化し、関係機関と共にチームで支援することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署員に来ていただき、急変時の救急法や事故発生時に備えての訓練を行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年に1回実施している。地域との協力体制は築いていない。	年1回、消防署の指導を受けて、夜間を想定した避難訓練を実施している。	火災や地震、津波、水害等の災害時、利用者を安全に避難誘導するため、消防団や近隣住民を交え、定期的な避難訓練の実施や住民の交流を密にし、協力が得られるような災害への対策を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉を選びながら、一人ひとりの性格に合わせた声かけを心がけている。また、誇りやプライバシーを損ねないよう職員会議において全職員で確認し合っている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に合わせ、自己決定ができるよう時間をかけ説明をしたり、さりげない声かけ・誘導をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その時の状態に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品など必要に応じて購入し、これまでに行ってきたその人らしい身だしなみやおしゃれが継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食材の買い出しや料理の下ごしらえ、台拭き、配膳、下膳、茶碗洗い等を職員と一緒にしている。昼食は、入居者と職員が同じテーブルでおしゃべりをしながら一緒に食べている。	利用者の力量に合わせた準備や下ぜんを行っている。利用者の誕生日には、希望する献立や差し入れ時には、急きょ献立変更をしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲み、おしゃべりをしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックは毎日行っている。水分量が少なめの方には、随時声かけをしながら、できる範囲で飲んでいただけるように声かけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいの声かけをし、入居者に行ってもらっている。また、義歯を装着している入居者には、夜間のみ、専用ケースに入れてもらい、義歯洗浄剤に浸けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導で、できるだけトイレでの排泄が行えるように努めている。	排泄パターンと習慣を把握し、トイレ誘導をし自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等の水分の摂取や緩下剤等の内服、腹部マッサージなど、個々に応じた排便コントロールに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴で、午後にゆっくりと入浴している。入浴拒否の入居者に対しては、入る順番や職員を替える等の対応をしている。夏場など、汗をかいている場合は、その都度、シャワー浴などの声かけを行うなどの支援を行っている。	基本的に週3回に決めているが、希望や体調の変化に合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの意志によって休んでいただいている。また、体調に応じてベッドにて休息していただくなど、個別に応じて支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を保管しており、内服薬が変更になった際には、必ず申し送りをして記録に残している。また、状態変化も必ず記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除、食後の食器洗い、洗濯物干しやたたみ方、食材の買い出し、調理などの作業に取り組んでいただいている。また、衣類の修繕やぞうきん縫い、書道などの昔からされてきたことを楽しんでいただけるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い出しや日用品等の買い物、近所への散歩などを楽しみにされており、職員と一緒に出掛けるようにしている。また、日に何度か中庭やホーム周辺の散歩を楽しみにされている方がおり、好きな時に自由に散歩していただき、職員はホーム内から見守りを行っている。	毎日、散歩を兼ねて、食材や日用品の買い物に近くのスーパーを利用している。また、四季折々の花や自然に触れることのできる遠足や陶芸教室を楽しみにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の問題があるため、本人・家族にはそのリスクを説明し、事務所で預かることを了解してもらっている。本人が買い物をする際には、職員が確認をしながら、本人と一緒に支払いをするなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される入居者には、職員が取り次ぎ、家族や友人と話をさせていただいている。年賀状など季節に応じ、家族や友人にお手紙を書いて送るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が安心かつ居心地良く過ごしていただけるような空間づくりに努めている。ホールの壁に、入居者が作成した季節に応じた貼り絵等を飾るなどして、季節感を味わうなどの工夫をしている。	玄関はバリアフリーで、ゆったりして安全である。共用の空間である食堂は整理され、対面式厨房で見守りしながら言葉を交わし、楽しい団らんの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには3つのソファが置いてあり、一人で過ごしたい方、他の入居者とおしゃべりをしたい方など、それぞれに座る位置が決まっており、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に、プライバシー保護も兼ねて本人が作ったのれんを掛けており、できる限り使い慣れたものを持ち込んでいただくようにしている。また、壁に入居者の写真やぬり絵等の作品、家族が持ち込んだ写真を貼っており、居心地良く過ごしていただけるように工夫している。	居室には、利用者が使い慣れたものがさりげなく置かれている。また、家族との思い出の写真や自慢の作品等が飾られ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどの場所が分からない入居者の為、目印となる看板を入居者に作成してもらい取り付け、入居者が安心してホーム内を一人で自立した行動ができるように工夫している。		